I 現在の診断名、原因

1 診断名: 外傷による脊椎骨折及び偽関節

2 原因: 外傷により脊椎骨折が生じ、脊柱支持性が低下しています。骨折が癒合せず偽関節という状態のため、腰痛　背部痛が持続しています。後で神経症状が増悪してくる(遅発性神経麻痺)などが危惧されます。

II 予定されている手術の名称と方法

1 麻酔: 全身麻酔

2 手術名: 骨セメントを用いた椎体形成術　BKP Balloon Kypho Plasty

3 方法: 背中部の後方を小切開します。専用の器具を用いて椎体内に骨セメントを注入します。骨折椎体を安定化させます。

III 手術に伴い期待される効果と限界

1 効果: 腰背部痛の軽減が期待されます(約60%)。

2 限界: 手術の目的は一つの椎体の補強です。他部位から発生している痛みには効果はありません。骨粗鬆はすべての骨にあります。よって、他の脊椎骨折は今後も発生する可能性は十分にあります。今後の経過で、再度手術を追加する必要がおこりえます。

IV 手術を受けない場合に予測される病状の推移と可能な他の治療法

1 予測される病状の推移: 腰痛が持続することが予測されます。

2 可能な他の治療法:腰椎の安静、コルセット、鎮痛剤、神経ブロック、牽引などが考えられます。

V 予測される合併症とその危険性

1 麻酔に伴う合併症: 稀ではありますが、悪性高熱、肺炎、気管の腫脹、血圧

低下など死亡するような合併症を生じます(1%未満)。

2 手術によって神経　血管を障害する可能性があり麻痺の悪化もありえます(数%)。

3 感染症:最大限清潔な操作を行っておりますが、感染の危険はゼロではありません(約1%)。感染のため内固定具を抜去する必要が生じることがあります。

4 深部静脈血栓症　エコノミークラス症候群: 術後に足の静脈内で血が固まり詰まることがあります。この場合は足がむくむだけでなく、血の固まりが心臓や肺などにとぶ可能性があります。心臓や肺などの血管が詰まると命にかかわります(1%未満)。 定期的に検査を行って、この徴候が見られたら固まりを溶かすよう点滴を行います。

5 輸血に伴う合併症:手術中、あるいは手術後に必要になった場合、輸血する可能性があります。その場合、輸血による副作用が出現する可能性があります。

6 その他:硬膜外血腫(約1%)、脊髄液漏出、術中の体位(腹臥位)による皮膚圧迫(顔面、眼球、胸部、骨盤部など)・大腿皮神経麻痺(大腿前面のしびれ感)、セメントの骨外への漏出　血管内への漏出　セメントでの塞栓症　セメントの骨外脱出　隣接脊椎の骨折　固定術の追加

VI 予測できない偶発症の可能性とそれに対する対応策

偶発的な合併症が出現する危険性もありますが、これらに対しては適宜病状を説明した上で治療に努めます。